（第三種郵便物認可　大正十四年一月廿日）

立教大學新聞

月刊毎月拾五日發行
編輯印刷兼發行人　矢澤齊一
發行所　東京池袋　立教大學新聞部
電話目黒四〇〇四
振替口座東京二〇〇〇四
定價一部金五錢　一年分金六拾錢
廣告料　一行十錢
廣告所指定二割増

獨逸論文叢書

譯註脚註

莊直一　水戸高校教授　編著

獨逸1000熟語集

五版忽ち

三紙正郵稅六錢　價一圓二十六錢　本社員二十四・二

敢て獨逸語と銘らず、その獨特有の慣用語即ち「熟語」を充分に挿ふるときは、構成上熟語の多分を持つ「文章」のそれは、讀むにも綴るにも極めて容易なわけである。編者はあらゆる熟語の中から最も普遍的な一千語を選み、例語文例を示して意義用法を叮嚀に說き、見る人のわかりよい姿に内容の排列整頓に心を碎いたから樂々と暗記する事が出來る。この書に照らせば躍然として明かに、さながら快刀亂麻を斷つの想ひに堪るであらう。構文に盛み適切の熟語が適所に驅使せられ、更に讀書力を强むる大なるは云ふまでもない。各語の間に餘白を殘して增補書入れの用となし。卷末に索引を設へて隨意檢出の便に供へた。熟語の專門書は本書が蓋し嚆矢であらう。

南山堂書店
東京市本郷區龍岡町
振替東京六三三八番

最新刊

明大教授法學士　杉山勝知
六高教授文學士　杉山茂　譯註

ラートブルフ　法律學概論

定價 .90　郵 4

本書は、數ある獨逸の法學通論の中で、最も傑出せるものとして定評ある、ラートブルフ教授の「法律學概論」第一章「法」に譯註を施したものである。内容は、法の概念、法の目的、法の効力、法の淵源より成り、法律哲學者として名名のある著者の片鱗を窺ふに足る。殊に、法の目的觀に於ける個人主義、超個人主義の對立を說いて、超人格主義に及び、相對立する兩主義の實際的意義を各政黨の綱領に就て吟味したるあたりは、著者得意の壇上で、余人の企て及ばざる所である。本書が專門書籍讀の指針として、内容的に、一般法律研究の學徒を奇發する所多かるべきは、勿論受驗參考書として語學の實力養成に資する所多かるべきは、譯註者の信じて疑はざる所である。

六高教授　杉山茂　譯註
ショーペンハウエル　讀書と書籍・婦人論　.90　4

愛知醫大講師　生駒佳年　譯註
ヘッケル　ダーフイット　進化論の内容と意義と社會的進化　1.20　6

六高教授　山岡直道　譯註
キンデルバンド　序曲（プレルーディエン）　1.30　6

六高教授　杉山茂　譯註
ヒルティー　人生の段階　1.00　4

六高教授　杉山茂　譯註
物理と化學（一）　1.20　6

杉山勝知・生駒佳年　譯註
カールティール　理論經濟學　1.40　6

六高教授　野田淨曉　譯註
リッケルト　哲學の概念に就いて　1.20　6

■各册・袖珍型・布表裝■

一九三一年版

竹内猷郎編◇全部改版索引付◇總皮裝　三五判　定價壹圓參拾錢　郵稅六錢　四五〇頁◇錢代金引換廿五錢引し

新聞語辭典

時代の尖端を行かんとする現代人!!
來る可き就職戰線を突破せむとするの士は
是非とも本書を忘れずにポケットへ!!
新らしい言葉は何でもある!!

アドマキン・アクロバット・アパッシエ・イット・イデオロギー・インテリゲンチヤ・ウルトラ・ヴェリエテ・ウオードビル・ヴアガボンド・エロ・エキセントリック・エキヤバンプレース・オーケストラ・オーケストラ・ヤグロ・オンパレード・カムフラージ・カクテル・コンパ・コンテスト・コンテンポラリー・サーカス・サボタージ・サンドイッチ・シヨウ・ジヤズ・ジヤンプ・スタンド・スポーツ・セーラー・セツクス・セツクスアピール・ソビエツト・ソフトボール・ソプラノ・ソロ・ダンス・ダンサー・ダンディー・ダンプ・ツーステップ・ツーリスト・ツーリスト・ツーリスト

スポーツの興行化

一

先般早大野球部の招聘に應じて來朝したシカゴ大學野球チームが早大○・Bチームと群馬縣下において試合した折、縣當局が散然としてスポーツを興行と認定して以來、野球選殺問題うんぬんよりスポーツ興行化の問題が、識者の間に論議せらるるに至つた。こゝにスポーツとはもちろんモダンスポーツとしてのベース・ボール、テニス、ラグビー陸上競技等々にその主眼を置くものであるが、吾人はこゝにおいては主に野球の興行化について論じたい。

二

一體、スポーツとは何であるか？の問題が提起されるのであるが、吾人は現在の客觀的狀勢に照合して、林髞氏が「スポーツの階級性」なる論文において正しくも斷言した「スポーツは要するに、ブルジョワ文化の勃興期に際し、グラウンドの一角に「無抵抗現地保護」の保學を構へ、そしてエロチシズム、ナンセンス等々の連射砲を亂射して、モダニズムのスモーク・「資本」カーテンの陰に隱れてひん死の「資本」の狂亂を援護するといふ點に、その全社會的意味をもつ」（中央公論・六月號）ものだとの言葉をもつとも適切な考察と思推するものであるが、いはゆるスポーツがいひ換ればスポーツ・マンがほとんど例外なく學生層に存在するといふ一事に吾人はもつとも關心を往きたいのである。なぜいはゆるモダン・スポーツが學生層によつてのみかくも享樂し得らるゝかの問題は、學生層が今日の社會にあつて如何なる所級層に屬するものであるかを考察する時は直ちに諒解せられる所だ。即ち現段階における學生層は例外なく中產階級以上の子弟に限られてゐる。言ひ換れば支配階級の一環としての存在である學生層なのである。他方、モダン・スポーツを享樂するいはゆるファンなる者の存在もそのほとんどはインテリゲチヤ層にある。ラヂオの中繼放送に依る大衆化によりその範圍が如何に擴大せられたとは言へ、スポーツを享樂し得る余裕と時間のある者は慨して中產階級以上の層に限られはしたいか。要するにスポーツを享樂する者――これを二つに大別してスポーツ・マン、スポーツ・ファンなる者は、いはゆるモダニストの潮中にその大多數を見出し得ると言つても適言ではあるまい。

三

かゝる條件のもとにあるいはゆるモダン・スポーツが特に學生のスポーツが近來――それは昨問題なる思想と健全なる肉體を養成せんとの目的を以てなされるものなのであらうか――興行化しつゝあると言ふ事實は世人の等しく認むる所である。何故それが興行化したか？ある者は興客大衆が選手を活動慰藉視し英雄視するからだと言ふ。これは全く正しい。いはゆる大選手が活躍なみにプロマイドを街頭にさらし求められゝばサインするが如き行爲は、如何なる者のとる態度であるか？又技藝勝れた者かいはゆる英雄（？）であるに異論にあるまいが、かゝることは問題ではない。要は現存制度の必然性が然らしめるので現存制度の發展する限りかゝる傾向は益々實際化しゆくであらう。前記シカゴ野球チームの監督茂氏はその歸國に際して正當にもこの事を指摘し日本にも近く職業野球側の發生を見るだらうと明言してゐる。

四

ある者はスポーツ興行化の問題は選手制度の飛躍によつて救はれると說くが、今日の如き狀態の果してどこまで、選手制度が果して徹廢し得らるゝや否や、吾人は甚しき疑問を持たざるを得ない。先般帝國大學野球部はその關西遠征を挙たて、余りに興行的な試合への出場はスポーツの墮落として、運動會からその出場を拒絕せられたが、かゝる態度を採ることがこの際もつとも賢明な、興行化排除の方法であるといふしかあるまい。いづれにとてもスポーツの興行化は、今日の如き狀勢下にあつては致し方なき成行にして、その經濟的辯解は現存制度の存在する限り不可能であると結論せざるを得ないのである。

本學の最高機關に大々的改正行はる

評議員會並に入學委員會設定され本學の組織化完成す

本學當局では今春來組織面に驚制の改正を意圖し、それ〳〵の機關を通じて專ら研究中であつたが、愈に改正されたものはさきに發表されたいはゆる六評議員の改正と今回更に今春來の

懸案 たる組織の改正に關しては數次の議論を經て漸く右に關し改正が行はれた。即ち今回の改正によれば本學の最高機關として評議員會の設定を見たがこれは形式上理事の最高機關となつてゐる。これによりこれまで本學の最高機關であつた常任委員會は自然消滅することゝなり委員の組織については多少の變更が行はれた。今回の改正によつて決定した評議員は

ラ理長、杉浦學長、木村商學部長、小林藝科長、岩佐學生主事、選長、チヤブレン、スタンス圖書館長、根岸、淺越、久保田（富）の三教授の諸氏であるが、

權域 に關してはいまだ決定を見ず評議考究中であるが大體左記の事項に關する權域が同評議員會に付與される權能である

即ち（一）議則、學則及內規改廢に關する事（二）學年行事に關する事（三）學生募集及入學試驗に關する事（四）教職員の任免に關する事（五）一般學生に關する重要事項に關する事

以上の五項の權域に屬し付與されるもので第一に從來の常任委員會の改正以上に出でたものである。これは常任委員會の組織が其の不完備であつたため、數年來複雜となる

圓滑 に處理し得ざるに至つたので今回の改正を見たわけである。同近く評議決定を見るはずの評議員會規約草案によれば同會は諮問機關となつてゐるが實質上では決議機關とも見られる。今回の改正を機會に本學當局では學校行政上の諸般の仕事を敏速に解決する意向で既にその準備にかゝつてゐるものすら見られる。尙評議員會の設定と同時に今回更に入學委員會が

設定 され同委員には文、商學部長に藝科長が決定したが同委員會は入學試驗及び入學許可資格審査等の數項に亘る權限が付與されてゐる

民族同好會生る

豫科を中心に

豫科二年A組では今春教授を會長とする民俗學同好會を起し、同好者を募つてゐるが識者は謂る民族學が科學として存續するや否やは今尙疑問でもあるが、すでに文化研究に大いに適用されてゐる今日科學としての成立は云々せず文化科學としての民族學を在來の研究者のみに任せず我々も共に研究し成るべく多くの同好者を作りたいと思ふ

大學のスポーツと世間

蓬萊山人

一

昨今各大學において、學校當局者と學生との間に、學後の行政上の問題や、何かで、いろ〳〵な騷擾を起すようであるが、これは第三者から見ると、いかにも無驗だ。殊に早稻田の如きは、その事件の起つた動機が、餘だ面白くない。要するに入場券の問題で、學校側が不當に高山取りあげて、それを生徒には渡さないといふ事が動機となつて、勃發したのであるから、世間から見ると、いかにも不愉快に見える。

一般にこの問題は、敵本主義だといふ者もある。現在の大學當局者の排斥運動が、その根本をなすものについて、殆三教授に於て問題となつたが、又二十日後東京朝日新聞社を見學するが、從來の見學とは一風變つた從業員の待遇、及勞働時間等を研究するのでその結果は期待されてゐる、御全各紙面に見られた維持費は八十圓を十倍として、更に向一月中旬設立の發起で總會は一月八日限りである

のであつて、それが、偶入場券といふ些細な問題に、口火を切つたまでだといふのである。あるひは、さうかも知れぬ。それにしても、リーグ戰の入場券の問題は、今回に限らず、今後いへども、相當な危介な問題となるべき素質を持つてゐるので、こゝに少しく我等の所見を述べて見たいと思ふ。

二

さてかうい問題になるものは、各大學及學校の選手制度である。一體學校が公然選手制度を認めて、授業を休ませて練習をやらせて居るから、畢竟こんな問題も起つてくる。故に思ひ切つて、選手制度を止して、野球スポーツの如きものは、全然やらせぬ事にしたら、宜からうといふのである。今度も一部の識者の間に、既にさういふ議論が、相當力強く起りつゝあるものと見て差支ないと思ふ。

三

そこでこの事については、どう考へるのが、もつとも正しいかといふ問題だ。われ等の見る所では、今日の世間一般のスポーツ熱は、餘りに高くなり過ぎた嫌ひがある。かう高くなつて、しまつては、勢ひ學生間の單なる競技とのみ見ては居られなくなる。何となれば、一枚の入場券にプレミアムがついてそれが五圓、十圓、二十圓といふ相場が出來て、來がはへて飛やうになつては、最早單純なる學生の競技ではない。事實さうであつても、世間から見ると、立派な興行だ。興行と見なされても致し方がない。

常初の全體を公認し、全體委員は理事會、維持員會、評議員會會計、教授會に出席、發言決定の權利を與へよ

との要求を

貫徹 せんとあくまで鬪爭の決意を固めゝ前記大教授團派

もこれに合流するものと見られてゐる合中野氏派學者が既立せる場合中野氏は後には文部省と無關係あるのみとこれまた強い決意を示してゐるので事態は益々紛糾するものと見られてゐたが當局の巧妙な手段とあまりに長期にわたる鬪爭に疲

倦怠 を夢と感覺された學生大衆は一般的狀勢でこれ以上鬪行を許さるためやむなく前記

妥協 で解決を見るに至るらしい

明大騷擾擴大化

遂に休校に至らん

學科第二部直下を スローガンに學生間動の勃發を見た明大はいまだ全部の足並そろはずその成行は

好意 的傾向を滿じつゝあるので、反學校派との對立は益々緊張狀態にあり當局は事態の紛糾を恐れ眼に緊張の出動を見てゐる模で、遠からず臨時休校のやむなきに至る模樣である

學長の令兄 杉浦義道氏逝く

去る七日肝臟病で

杉浦學長の令兄で本學卿の會計監事杉浦義道氏は肝臟病をやみ去る四日巢鴨巢鴨路加病院へ

入院 後業中であつたがその甲斐なく去る七日逝去した享年六十八

氏は元治元年鶴里藩井筒小濱に生れ成人となるに及び大津藩學校に學び中途退學上京して本學のの前身立教大學校に入學ウイリアム師の訓德を受けるに至り信仰深き信者となり卒業後

牧師 となつたのち本學院理事に推されるに至つたがその間にも精力的なる氏は勞働者煙風會を創立するに及び同會長となり職務に精勵今日に至つたものである

葬儀は去る十日青山聖三一教會にて午後三時より厳粛裡にもいと

盛大に執行された

學科目改正案

近く決定の見込

商學科

第一必修科目

商業に關するもの　一年

商工業經營　二

商業數學　二

計理　二

銀行及金融　二

保險　二

商品　二

商業政策　二

貿易實務　二

經濟學に關するもの　一

經濟原論　一

財政學　四

貨幣論　二

法學に關するもの

書法　二

民法　四

商法　二

商業英語　一、二、三　四

第二必修選擇科目

商業に關するもの　一、二、三

國際貿易關係　一

國際金融及外國爲替　一

統計學　一

取引所論　一

物價論　一

會計　二

商店經營　二

外國市場及經濟事情　二

近世商學史　二

商業地理　二

交通政策　二

殺關及倉庫　二

海上保險及共同海損　二

工業通論　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

勞働法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

支那語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

統計學　一

國際金融及外國爲替　二

國際私法　二

外國語　一、二、三　四

信託　二

殺關及倉庫　二

原價計算　二

特種銀行　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

計理ヲ主トスルモノ　一

統計學　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　二、三

外國語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

國際金融及外國爲替　二

國際私法　二

信託　二

原價計算　二

特種銀行　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

計理ヲ主トスルモノ　一

統計學　一

經濟學科

第一必修科目

經濟原論　一

經濟學史　一

經濟史　一

財政學　一

貨幣論　一

銀行及金融　一

保險論　一

國際金融及外國爲替　二

監査　二

工場管理　二

殺關及倉庫　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

手形法　二

破產法及和議法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

交通論　二

經濟政策　二

商業政策　二

工業政策　二

農業政策　二

憲法　二

民法　一、二、三

商法　一、二、三

英語　一、二、三

第二選擇科目

日本經濟史　二

經濟原論上ノ諸問題　二

計理學　二

取引所論　二

國際金融及外國爲替　二

統計學　二

行政法　二

民法　一

商法　一

勞働法　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　一

河書　一

第三選擇科目

隨意科目の種類及授業時數は教授會の決議に依り毎學年これを定む

學生は本學部又は文學部に屬する授業に本學部長及文學部長の許可を得て隨意科目として履修する事を得

學科目

以上列擧せる學科目の外適當學科目又は隨意科目として臨時あるひは學科目の講義を開く事あるべし。特別の研究指導を受ける學生は研究上の必要に應じ學部長及指導教授の承認を經て前記に定めたる必修科目中のある學科目を欠き選擇科目中のある學科目を以てこれに代ふる事を得。終。

大學の最高機關に

大々的改正行はる

評議員會並に入學委員會設定され本學の組織化完成す

本學當局では今春來組織面に驚制の改正を意圖し、それ〳〵の機關を通じて專ら研究中であつたが、愈に改正されたものはさきに發表されたいはゆる六評議員の改正と今回更に今春來の

懸案 たる組織の改正に關しては數次の議論を經て漸く右に關し改正が行はれた。即ち今回の改正によれば本學の最高機關として評議員會の設定を見たがこれは形式上理事の最高機關となつてゐる。これによりこれまで本學の最高機關であつた常任委員會は自然消滅することゝなり委員の組織については多少の變更が行はれた。今回の改正によつて決定した評議員は

ラ理長、杉浦學長、木村商學部長、小林藝科長、岩佐學生主事、選長、チヤブレン、スタンス圖書館長、根岸、淺越、久保田（富）の三教授の諸氏であるが、

權域 に關してはいまだ決定を見ず評議考究中であるが大體左記の事項に關する權域が同評議員會に付與される權能である

即ち（一）議則、學則及內規改廢に關する事（二）學年行事に關する事（三）學生募集及入學試驗に關する事（四）教職員の任免に關する事（五）一般學生に關する重要事項に關する事

以上の五項の權域に屬し付與されるもので第一に從來の常任委員會の改正以上に出でたものである。これは常任委員會の組織が其の不完備であつたため、數年來複雜となる

圓滑 に處理し得ざるに至つたので今回の改正を見たわけである。同近く評議決定を見るはずの評議員會規約草案によれば同會は諮問機關となつてゐるが實質上では決議機關とも見られる。今回の改正を機會に本學當局では學校行政上の諸般の仕事を敏速に解決する意向で既にその準備にかゝつてゐるものすら見られる。尙評議員會の設定と同時に今回更に入學委員會が

設定 され同委員には文、商學部長に藝科長が決定したが同委員會は入學試驗及び入學許可資格審査等の數項に亘る權限が付與されてゐる

民族同好會生る

豫科を中心に

豫科二年A組では今春教授を會長とする民俗學同好會を起し、同好者を募つてゐるが識者は謂る民族學が科學として存續するや否やは今尙疑問でもあるが、すでに文化研究に大いに適用されてゐる今日科學としての成立は云々せず文化科學としての民族學を在來の研究者のみに任せず我々も共に研究し成るべく多くの同好者を作りたいと思ふ

大學のスポーツと世間

蓬萊山人

一

昨今各大學において、學校當局者と學生との間に、學後の行政上の問題や、何かで、いろ〳〵な騷擾を起すようであるが、これは第三者から見ると、いかにも無驗だ。殊に早稻田の如きは、その事件の起つた動機が、餘だ面白くない。要するに入場券の問題で、學校側が不當に高山取りあげて、それを生徒には渡さないといふ事が動機となつて、勃發したのであるから、世間から見ると、いかにも不愉快に見える。

一般にこの問題は、敵本主義だといふ者もある。現在の大學當局者の排斥運動が、その根本をなすものについて、殆三教授に於て問題となつたが、又二十日後東京朝日新聞社を見學するが、從來の見學とは一風變つた從業員の待遇、及勞働時間等を研究するのでその結果は期待されてゐる、御全各紙面に見られた維持費は八十圓を十倍として、更に向一月中旬設立の發起で總會は一月八日限りである

のであつて、それが、偶入場券といふ些細な問題に、口火を切つたまでだといふのである。あるひは、さうかも知れぬ。それにしても、リーグ戰の入場券の問題は、今回に限らず、今後いへども、相當な危介な問題となるべき素質を持つてゐるので、こゝに少しく我等の所見を述べて見たいと思ふ。

二

さてかうい問題になるものは、各大學及學校の選手制度である。一體學校が公然選手制度を認めて、授業を休ませて練習をやらせて居るから、畢竟こんな問題も起つてくる。故に思ひ切つて、選手制度を止して、野球スポーツの如きものは、全然やらせぬ事にしたら、宜からうといふのである。今度も一部の識者の間に、既にさういふ議論が、相當力強く起りつゝあるものと見て差支ないと思ふ。

三

そこでこの事については、どう考へるのが、もつとも正しいかといふ問題だ。われ等の見る所では、今日の世間一般のスポーツ熱は、餘りに高くなり過ぎた嫌ひがある。かう高くなつて、しまつては、勢ひ學生間の單なる競技とのみ見ては居られなくなる。何となれば、一枚の入場券にプレミアムがついてそれが五圓、十圓、二十圓といふ相場が出來て、來がはへて飛やうになつては、最早單純なる學生の競技ではない。事實さうであつても、世間から見ると、立派な興行だ。興行と見なされても致し方がない。

常初の全體を公認し、全體委員は理事會、維持員會、評議員會會計、教授會に出席、發言決定の權利を與へよ

との要求を

貫徹 せんとあくまで鬪爭の決意を固めゝ前記大教授團派

もこれに合流するものと見られてゐる合中野氏派學者が既立せる場合中野氏は後には文部省と無關係あるのみとこれまた強い決意を示してゐるので事態は益々紛糾するものと見られてゐたが當局の巧妙な手段とあまりに長期にわたる鬪爭に疲

倦怠 を夢と感覺された學生大衆は一般的狀勢でこれ以上鬪行を許さるためやむなく前記

妥協 で解決を見るに至るらしい

明大騷擾擴大化

遂に休校に至らん

學科第二部直下を スローガンに學生間動の勃發を見た明大はいまだ全部の足並そろはずその成行は

好意 的傾向を滿じつゝあるので、反學校派との對立は益々緊張狀態にあり當局は事態の紛糾を恐れ眼に緊張の出動を見てゐる模で、遠からず臨時休校のやむなきに至る模樣である

學長の令兄 杉浦義道氏逝く

去る七日肝臟病で

杉浦學長の令兄で本學卿の會計監事杉浦義道氏は肝臟病をやみ去る四日巢鴨巢鴨路加病院へ

入院 後業中であつたがその甲斐なく去る七日逝去した享年六十八

氏は元治元年鶴里藩井筒小濱に生れ成人となるに及び大津藩學校に學び中途退學上京して本學のの前身立教大學校に入學ウイリアム師の訓德を受けるに至り信仰深き信者となり卒業後

牧師 となつたのち本學院理事に推されるに至つたがその間にも精力的なる氏は勞働者煙風會を創立するに及び同會長となり職務に精勵今日に至つたものである

葬儀は去る十日青山聖三一教會にて午後三時より厳粛裡にもいと

盛大に執行された

學科目改正案

近く決定の見込

商學科

第一必修科目

商業に關するもの　一年

商工業經營　二

商業數學　二

計理　二

銀行及金融　二

保險　二

商品　二

商業政策　二

貿易實務　二

經濟學に關するもの　一

經濟原論　一

財政學　四

貨幣論　二

法學に關するもの

書法　二

民法　四

商法　二

商業英語　一、二、三　四

第二必修選擇科目

商業に關するもの　一、二、三

國際貿易關係　一

國際金融及外國爲替　一

統計學　一

取引所論　一

物價論　一

會計　二

商店經營　二

外國市場及經濟事情　二

近世商學史　二

商業地理　二

交通政策　二

殺關及倉庫　二

海上保險及共同海損　二

工業通論　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

勞働法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

統計學　一

國際金融及外國爲替　二

國際私法　二

信託　二

原價計算　二

特種銀行　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

計理ヲ主トスルモノ　一

統計學　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　二、三

外國語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

國際金融及外國爲替　二

監査　二

工場管理　二

殺關及倉庫　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

手形法　二

破產法及和議法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

經濟學科

第一必修科目

經濟原論　一

經濟學史　一

經濟史　一

財政學　一

貨幣論　一

銀行及金融　一

保險論　一

國際金融及外國爲替　二

監査　二

工場管理　二

殺關及倉庫　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

手形法　二

破產法及和議法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

交通論　二

經濟政策　二

商業政策　二

工業政策　二

農業政策　二

憲法　二

民法　一、二、三

商法　一、二、三

英語　一、二、三

第二選擇科目

日本經濟史　二

經濟原論上ノ諸問題　二

計理學　二

取引所論　二

國際金融及外國爲替　二

統計學　二

行政法　二

民法　一

商法　一

勞働法　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　一

河書　一

第三選擇科目

隨意科目の種類及授業時數は教授會の決議に依り毎學年これを定む

學生は本學部又は文學部に屬する授業に本學部長及文學部長の許可を得て隨意科目として履修する事を得

學科目

以上列擧せる學科目の外適當學科目又は隨意科目として臨時あるひは學科目の講義を開く事あるべし。特別の研究指導を受ける學生は研究上の必要に應じ學部長及指導教授の承認を經て前記に定めたる必修科目中のある學科目を欠き選擇科目中のある學科目を以てこれに代ふる事を得。終。

學長の令兄 杉浦義道氏逝く

去る七日肝臟病で

杉浦學長の令兄で本學卿の會計監事杉浦義道氏は肝臟病をやみ去る四日巢鴨巢鴨路加病院へ

入院 後業中であつたがその甲斐なく去る七日逝去した享年六十八

氏は元治元年鶴里藩井筒小濱に生れ成人となるに及び大津藩學校に學び中途退學上京して本學のの前身立教大學校に入學ウイリアム師の訓德を受けるに至り信仰深き信者となり卒業後

牧師 となつたのち本學院理事に推されるに至つたがその間にも精力的なる氏は勞働者煙風會を創立するに及び同會長となり職務に精勵今日に至つたものである

葬儀は去る十日青山聖三一教會にて午後三時より厳粛裡にもいと

盛大に執行された

學科目改正案

近く決定の見込

商學科

第一必修科目

商業に關するもの　一年

商工業經營　二

商業數學　二

計理　二

銀行及金融　二

保險　二

商品　二

商業政策　二

貿易實務　二

經濟學に關するもの　一

經濟原論　一

財政學　四

貨幣論　二

法學に關するもの

書法　二

民法　四

商法　二

商業英語　一、二、三　四

第二必修選擇科目

商業に關するもの　一、二、三

國際貿易關係　一

國際金融及外國爲替　一

統計學　一

取引所論　一

物價論　一

會計　二

商店經營　二

外國市場及經濟事情　二

近世商學史　二

商業地理　二

交通政策　二

殺關及倉庫　二

海上保險及共同海損　二

工業通論　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

勞働法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

統計學　一

國際金融及外國爲替　二

國際私法　二

信託　二

原價計算　二

特種銀行　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

破產法及和議法　二

手形法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

計理ヲ主トスルモノ　一

統計學　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　二、三

外國語（一）一、二、三　四

河書　一

銀行を主とするもの

國際金融及外國爲替　二

監査　二

工場管理　二

殺關及倉庫　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

手形法　二

破產法及和議法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

經濟學科

第一必修科目

經濟原論　一

經濟學史　一

經濟史　一

財政學　一

貨幣論　一

銀行及金融　一

保險論　一

國際金融及外國爲替　二

監査　二

工場管理　二

殺關及倉庫　二

銀行會計　二

工業會計　二

刑法　二

行政法　二

手形法　二

破產法及和議法　二

國際公法　二

國際私法　二

教育學及教育史　二、三

外國語　一、二、三

河書　一

交通論　二

經濟政策　二

商業政策　二

工業政策　二

農業政策　二

憲法　二

民法　一、二、三

商法　一、二、三

英語　一、二、三

第二選擇科目

日本經濟史　二

經濟原論上ノ諸問題　二

計理學　二

取引所論　二

國際金融及外國爲替　二

統計學　二

行政法　二

民法　一

商法　一

勞働法　一

國際公法　一

國際私法　一

教育學及教育史　一

河書　一

第三選擇科目

隨意科目の種類及授業時數は教授會の決議に依り毎學年これを定む

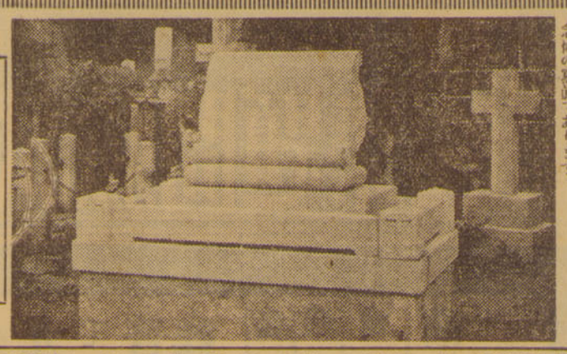
學生は本學部又は文學部に屬する授業に本學部長及文學部長の許可を得て隨意科目として履修する事を得

學科目

以上列擧せる學科目の外適當學科目又は隨意科目として臨時あるひは學科目の講義を開く事あるべし。特別の研究指導を受ける學生は研究上の必要に應じ學部長及指導教授の承認を經て前記に定めたる必修科目中のある學科目を欠き選擇科目中のある學科目を以てこれに代ふる事を得。終。

立教學院校友會報告

先般、故ワイリアム・スタンス監督建學基金の御醵出を願ひましたが、去る一日京都右王子山上教會墓地において壯厳なる建碑除幕式を挙行せられた旨同建碑委員より通知がありました。次は記念碑の寫眞であります。



碑文

創業ノ難ヲ排シ堅忍能ク日本聖公會ノ基ヲ奠ム嘆呼我カ老監督ウイリアムス美哉日本在任五十年道ヲ傳ヘテ己ヲ傳ヘズ一朝蘭然トシテ去リ老骨ヲ故山ニ埋ム濃谷彷彿追慕日ニ新ナルモノアリ茲ニ碑ヲ建テ日後靈嘉ノ意ヲ表ス

昭和五年十一月一日

日本聖公會有志者

市川勝太郎、淺越金次郎兩先生の表彰

去る十月三十日東京府において教育勅語渙發四十週年記念式典の當日、我が市川、淺越兩先生は府下の教育界に活動せらるゝこと勅語四十年以上に及び其功績顯著なる旨を以て東京府から表彰せられました。

校友和田秀豐、貫民之介兩氏の譽れ

多年癩患者のためにほとんど寢食を忘れてその慰安と療養とに盡された功績を嘉せられ畏くも皇太后陛下には今回御下賜品を賜ふて兩氏の功を表彰せられました。

校友消息

笠置義知氏神奈川縣大磯町山王町四〇六へ御轉居

池田濟氏　市外池袋一五六八へ

丸山鳳病氏　市外杉並町高圓寺八四〇へ

杉島一郎氏　市外馬込町三五〇四へ

石濱五六氏　奉天彌生町二八へ

村上保男氏　愛媛縣新居郡金子村久保田へ

大野信三氏　府下豐多摩郡武藏野町境八四九へ

西川彦六氏　府下大森町不入斗九三三へ

平澤實氏　市外淀野川町西ケ原七〇へ

色田嚴雄氏　福島市本町二一、日本銀行福島支店へ御轉任

安藤賀雄氏　神戸市海岸通三井物産船舶部氣付

汽船鞍馬山丸御乘組

田子精一氏　市外馬込町原九三八五〇へ

伊古田憲三氏　市外中野町二四六大野屋方へ

名生晃氏　小石川區淡路町五七田口方へ

永村宜年氏　京橋區稲荷町八梅田ビル株式會社內外社へ御入社

清水英治氏　小石川區櫻木町一へ御轉居

舟木重雄氏　名古屋の御住所を次の通く訂正（市外鶴澤町上馬九一八）

池田實男氏　名古屋の御住所次の通り訂正（四谷區番衆町三一）

海野宇三郎氏　大阪市西區靱町二ノ一九へ御轉居

岩井章也氏　芝區三田綱町一（電話麻八二一）へ

三木三郎氏　京橋區銀座六丁目淺野スレート株式會社の御轉勤

前原軍治氏　今般森永乳式會社本社販賣課へ御轉任

住居は府下高田町學習院附屬官舍內

土屋明治氏　小石川區東青柳町二三へ

田口利吉郎氏　市外千駄ケ谷町七一一へ

落合泰次郎氏　市外高井戸町中高井戸一三八へ

吉川直氏　本郷區元町二ノ六六、長生館內へ

大久保信彦氏　長野市鶴町清城館方へ

細野三千雄氏　市外杉並町西馬橋四六へ

野波福三郎氏　米國留學中御住居ひは 940 Yeakon Ave., Yeadon Pa., U. S. A.

富山彦氏　府下荏原郡池上町雪ケ谷供丸二七へ

富田勇氏　府下荏原郡松澤村赤堀四〇七へ

富田恵氏　同上

今村忠助氏　ブラジルに於ける我が移民の視察及觀問の爲め昨年來彼の地に渡航中の處去月二十日用務を果して無事歸朝せらる

田邊忠男氏（文教授）豫てフランスへ留學中先般歸學せらる。

大野樹氏　豫て英國に留學中、伯母に當られる明電社長重宗たけ氏の急死により豫定を變更して急遽歸朝せらる。

長谷川虎太郎氏　御住ひは赤坂區表町二丁目十一へ

校友日本聖公會長老、勞働者煙風會々長杉浦義道氏は豫て御病氣にて御療養中御容體急轉去七日午前八時半長逝せられました。

校友德田康作氏御嚴父奥三郎氏は多年美唱寮舍監を經營して居られましたが去五日突然逝去せられました。

校友佐藤英雄氏御嚴父富雄氏は去月末逝去せられました。

校友豐田利三郎氏御養父豐田佐吉氏は去月末宿痾の爲め逝去せられました。翁は豐田式紡織機の發明家として嘗々の令名があつた方で今此の經濟難の際此の人を失ふ事は我が實業界の爲め發明界の爲めに誠に惜しき極みであります。

立教大學構內 立教學院校友會

拜啓　逐日冷氣相加候處愈々御勇健奉賀候陳者來十一月二十六日（水曜日）午後五時東京九ノ內東京ステーションホテルに於て第二十三回會員總會開會仕り左記事項御協議申上度候間萬障御繰合御出席被成下度此段御案內申上候　敬具

昭和五年十一月十二日

立教學院校友會長　松崎半三郎

協議事項

一、昭和四年度事務報告の件　二、昭和四年度會計報告の件

三、會則改正の件　四、役員改選の件

追而乍御手數樣御來否折返し御一報相煩度候。

晩餐の御備致置候、宴會費金二圓也當日御持參被下度候。

盛會を豫想さるゝ 學生弁論大會

本學弁論部の主催でけふ講堂で開催さる

本學弁論部主催全國大學高專學生弁論大會は本十五日午後一時より二十四番教室において開催されるが早稻田の二大學において野球問題に端を發しての紛糾ありまた昨年大學の國際問題、言論出版、綱紀の自由をあたへよのスローガンを高く掲げられ從來に力強く訴へるはずであるが同部では多數學生がどしく おしかけて眞の學生弁論大會たらんとせめてくれと

熱心 に希望して居る明十六日午後五時半より青山會館において行はれる第東學生弁論部の時局批判演說會は時節柄非常なる盛會にて多分言論を超越してある種の行動に出るのではないかと觀測されて居る

洋畫展覽會 十七日から

番匠谷部長も出品す

本學洋畫グラブでは來る十七日より一週間本學ホールにて第六回洋畫展覽會を開催する、今回は出品作品の製作に專念してゐる模樣で、殊に部長番匠谷教授自慢の作品や日本會入選の松岡君等の作品多數出品されるはずで美術シーズンを驚すものと見られる

音樂演奏會終る

七日日本青年館で

本學音樂部主催グリークラブ實助出演の演奏會は滿員滿場裡中の七日日本青年館で催された。この日定刻までにはすでに滿員となり婦人連の姿も多く見られた第一曲目演奏後指揮者池田豊進氏「花園の闇」あり、演奏曲目を追に進つて盡粟はその演技に興奮し非常な盛會裏に終つた

三勝一敗

弓道關西遠征

本學弓道部は去る秋季休暇を利用し一行十五名は三日東京驛を出發、西方面遠征の途についたが五日鹿谷大學との試合に九點八一にて勝ち六日大西商大と八點八六にて惜勝七日神戸商大と無つて九五點九十で勝ち八日關西學院との試合に一〇八點九三にて惜敗にも破れた、かくて三勝一敗の好成績で遠征を終り十日歸京した。尙二十五日神戸商大が來校本學道場において試合の豫定である

時間空間

× 當局の組織は「會」偏を排する。嘉みすべきか、將た恥ずべきか。

× 學校騷動問題。當局が禁可化の正體を露出するのが最大問題といへよう。

× 早大問題に對し我々はその偉大な團結の力に萬歲の歌聲を送るものであるが、本望に堪へぬ所だ。

× 野球部の惨敗は余りにもみじめであつた。最慣努力を祈つて止まない。

× グラス委員會解散を決議したクラスがある。時間橫流行社目に恒ひしよう。

廣告

（第三種郵便物認可　大正十四年一月廿日）

野球部更生の道

餘りにもみぢめな野球部慘敗の跡

その更生は如何にして可能か

全國數百萬の野球ファンを熱狂させた六大學秋季野球リーグは、本學多年の好敵手法政軍の敗北を以て遂に成つて新興チームのため萬丈の氣をはいたかたちだが、ひるがへつて本學チームの戰績を見るに成績順位、勝敗成績ともに最下位、守備率はともかくチーム打撃率一割四分四厘といふみぢめな成績で又も、リーグ最下位といふ苦杯をなめた、勝敗は兵家の常、勝つばかりが能ではないとはいふものの、この慘敗ぶりは余りにも長れ、余りにも不甲斐なき事ではあつた、がこの慘敗の苦杯こそ明日の勝利を約束する殊樣となるものと吾人は同部今後の活躍に多大の期待を懸けるものである、シーズン中内外うんぬんのうはさしきり今尚絶叫中と聞くが、同部が同部自身若き新田監督を中心に全き刷新の行はるゝ日の一日も早きことを祈つてやまないものである、次にかゝる苦境期にある同部更生の一助にもと淡樣感の戰後感想談を掲載しやう

三年計畫で……充實を計れ

市岡忠男氏談

○立教が今秋六大學リーグ戰に於ける惨敗の原因は決して一朝一夕に成つたものではなかつた事は一重に野球部内のかつこうに現はれるものであると思ふ。古來立教は、打撃においては三浦君や中島君その他多くの強打者を有して居るが、投手陣が極めて弱かつたのも、選手の選擇よりくる意氣の相違によるのではないかと思ふ。然し内部にかつこうが起つて居る時でもチームの力が強い時にはこれを押し切つて行く事が出來るが、弱い時には非常に強く響響するもので立教の如く團結あつては到底これを押切る事は出來ない

○自分の考へとしては部の改革を計るために部の規則を設つたり不誠實の行爲をするものには毅然たる處置をとり部内にある悪い根を取り去る樣にしたら善いと思ふ。次に野球の生命は投手にある。それ故に完全な投手を養成する事にあると思ふ。例へば法政君の樣に投手陣に強い人を入れて置くこと、立教は、打撃に強い人を入れて置くこと、立教は、岡崎・辻南君の如き立派な投手を有し相手をどたん場まで押して行きながらも敗れるのはつまり意氣が不完全であるからである

○次にはチームの更新である、このチームを立直すには新しい血液を注つて一新した團結あるチームを造つて戦つて戦う事はないのだ。部内のごたごたを排ひのけて部の統一を期し、新選手をどしどしいれて前と面目を異にしたチームを作り選手一同の熱意ある練習を積みそのチームのたい度するを待つ事である

すべての敗因は覇氣の皆無

永田庚二氏談

○立教のチームは又最下位に甘んじなくてはならぬ樣になつたのは実力薄弱でありますがどうしたならばより強力なチームになれるだらうかと考へるにはどうして負けたかを考へねばならないと思ふのですがこの秋の戦ひを見るに大体の敵合敵に消した感覚が三敗四敗、時には一敗二敗といふ樣な樣すくないものであつたし友團際選手はよく投げて居た樣ですから投手を責むべきではないと思ひます、敵が二敗三敗を取つたら此方は四敗五敗と取つて行くのでなくては駄目だと思ふのです

○守備が如何に良くとも攻撃にしておく以外には出來ないのですから要は打撃の問題だと思ひます、打撃不振、総ての敗因はこれにあつた樣に思はれるが、元來この打撃といふものは非常に氣分に左右され勝ちなものですから、打つてやらうといふ熱氣に欠けて居るためでないかと考へてやります、特に若者が出てからストライクを見逃すといふ樣なことがたびたび見られた樣ですから、ファイティングスピリットに欠けて居る所からくるものでないでせうか、チーム全體に元氣なく又チーム全體を元氣づけて行く主政の久保君の樣な人が居ないといふこともチームを元氣なくすることになるのでせう

新裝成れる池袋市街　豐島師範横

不撤底が齎す自信の缺如

若き野田監督語る

野田監督は力戦百闘の疲勞のため医に十日間静養床にあるが昨秋直後であり戦績に於ては未だ顧みかに考慮して見て居ないので今後の更生の道は改めて紙上において表するとの事であつたが、同監督は選手の選擇について語る所があつた

おとなしいといはれる応援振りが可成り志気に影響を與へるらしい事ろ一般ファンの方が熱心だともいへる程だ、今後熱烈な愛校心の發露による應援と理解を望みます

○又、選擇も非常に熱心にされて居る樣ですが、たゞ教と監督の命令通りに働くのではなく各自が自分の特徴を伸ばす個性ある選擇といふことを必要のことでないでせうか、要するに積極的に元氣で打撃に力を注ぎ早慶の二倍三倍の努力をする樣でなくては駄目だと思ひます

冬期休暇　來月中旬から

昭和五年も残す所一ヶ月半となつた。秋期試験も終へ今學期もいよ〳〵試験に近づき、待たるる冬期休暇も表されたが本年度の冬休は、學期は十二月十三日、像科は十五日より十八日までの試験を終へて十九日より翌年一月七日までである

内紛は圓く納めたい

久保田正次氏談

○今シーズンを通して總関の戦績振りが可成り志気に影響を與へるらしい事ろ一般ファンの方が熱心だともいへる程だ、今後熱烈な愛校心の發露による應援と理解を望みます

○又、選擇も非常に熱心にされて居る樣ですが、たゞ教と監督の命令通りに働くのではなく各自が自分の特徴を伸ばす個性ある選擇といふことを必要のことでないでせうか、要するに積極的に元氣で打撃に力を注ぎ早慶の二倍三倍の努力をする樣でなくては駄目だと思ひます

必勝を期す相撲部

全國學生相撲大會に出場

本學相撲部では十五、六の両日堺大浜で開催される大毎主催の全國學生相撲大會に出場すべく去る十三日午後七時分東京發の列車で西下した、メンバーは宮崎伊藤太郎、二將松田敏二、中野米山孝元、關脇三田清、大將光川仁郎で目下、山口高鐵、振天と對する事に決した、同十七日開所において開催される關西學生選抜試合には伊藤太郎、三田清、光川仁郎の三君

新任學生主事　田口氏來學

專ら體育方面を擔當

本月前號に報道したる如く、體育部所属主任を置くため新たに原生主事に當らしめるため後友田口利吉郎氏を任命した、同氏は大正四年（第五回）の本學商科卒業で在學中は四段といふ柔道の段位を有してゐる柔道の選手であつたが現在は六段の段位を有してゐる柔道の選手であつたが現在は六段の段位を有してゐる柔道の選手であつたが現在は六段

大學に於ける自由

林桂花

この駁論を讀まゝる方々が、中央公論十一月號の河合博士の「大學の自由とは何か」なる論文をも併讀されんことを望む。

△

時代の變遷に伴ふて、思想の展開は當然である。然もそれは、必然的な過程として對立關係にある、少くも二個の思想の相剋の姿を點出する。近來著しく目立つて論議されたる、大學の自由乃至は大學そのゝ解釋における場合も同然である樣に見える。一は卽ちマルキストによる大學の觀落論であり、一は卽ち河合博士等による、自由主義的な、一面官僚的な大學論である。自分は別にこの兩個の解釋論に對して是非を論議しやうとい ふ意思的な考へを有するものではないが、大學の機能の發展のために河合博士の說に多少の愚見を述べるだけである。唯それも隨想風にて合理的に論議を進められてゐる。そして一般マルクス者流が、その本質を見極めずして論議を進めると排撃して、大學の本質は「學問の研究と教育をなす部分社會である」と斷定され、研究においては何なる自由を要求するも可なれど、その對社會的な發表において は大學自體の自由の問題に關する所に非ずとせられてゐる。もつとも教育てふ事が博士のいはゆる合法性の絕對尊重の理由であり、この資本主義社會への盲目、無批評的追隨の因由であるとするならば別として、もつと廣い意味で人類の理想に對する教育てふ風な見解を持つるならば、その定義よりして、多少の議論も生れることになるだらう。

△

博士のいはゝ樣に大學がその一部を構成する所の社會は、變遷する思想の流れと共に漸次的變遷の過程をたどることを逸れないであらう。從つて部分社會としての大學そのものゝ、本質も又社會の變遷に影響されずして存在することは不可能である。されば大學を一般社會の動回の如何に拘らず、「靜なる研究と教育の場所である」といふ事と、大學が社會部分であるといふ事とは相互に無理なく合致し得る觀念であるとはどうしていへるのだらう。

△

更に博士は對社會的な發表の自由は大學の自由に關與する所でないといふ。然らば發表なき研究は如何なる價値を有するのか。教育の二の方式は必ず發表を伴ふことは明白である、その對象としてすべきものが例へ主としては學生であるとしても、一般社會への發表すらが何等かの形で認容さるゝに非ざれば、大學そのものゝ、部分社會であることの意義は大半を失ふことになりはしないか、研究發表の自由の擁保されざる限り研究の自由は無視されてゐるといはざるを得ない。强く現在し、明日に期開さるべき社會形式に對する學問的良心による研究の結果の發表すら尙不當なりとするならば大學に自由なしと叫ぶ者の出るも又故なきとせないであらう。

博士は時に自由その事の意味を如何に解するかを苦しむと述べられてゐるが、大學の本質に照應せる博士の合法性も又問題である。

△

「大學は學問の研究と教育をなす部分社會である」とは、博士の定義である。が大學は何故に學問を研究するのであるか、それは一部の識味的・娯樂的研究を除いては恐らく眞理の探究と、それの人類の福利の增進への功獻が最終の目的であらう。目的意識を有せざるあらゆる學業はその價値をほとんど有さない。研究のための研究といふ事は結局無意味である。價値と意義を喪想せる研究にして、始めて眞の意味の研究であり得る。

△

博士は實踐と研究とを明らかに區別して、實踐は研究の範圍の逸脫である とせられる。それは大學の自由についての論議の對照となる範圍外のものであると說かれる。然し同じ大學の分野として有する、自然科學、例へば醫學工學の方面において、その研究とこの實踐の感應せるゝかに見た、社會科學の方面においては極めて、顯烈に實踐的な方面を限局せられんとするは果して、嚴正なるべき大學として採るべき態度だらうか。博士が動く社會の部分として大學を見るとに否かならざることを望んでやまない。妄言を博士並に讀者に謝す。

科學と詩

―リチャーズの小著―

上田勳

アイ、エー、リチャーズは現代英國文藝批評界にあつて、エリオット、リード等と共に理知主義を代表する一人である。彼の小著「科學と詩」は一九二六年ケーガン、ポール社の上梓、知る人も少なくはあるまい。彼は一介の文藝批評家ではない。「文藝批評の原理」乃至は非年上梓の「實際の批評」等にうかがはれる樣に心理學の造詣が深い。寧ろ實驗心理學の立場から文藝批評理論を檢討して行く人の樣に思はれる。彼の觀心事はオグデン教授との共著「意味の意味」が證する樣に「言語」の究明にある樣だ。その點での彼の功績は大きい。それはともあれ彼が科學者である事實が、この「科學と詩」を一層興味あるものにする。この矛盾した二種のが、科學と文藝に對して關心をつつ殘少なき者者にあつて、如何に魅惑されて居るかを知る事は、强ち私一人の興味ではあるまい。

△

人間が自己と周圍の世界とについて思惟を凝した歷史はない。恐らくそれは意識の發生當初にまでも溯れるだらう。が、「科學のない時代」と「科學のある時代」との間に、世界觀の上に根本的な變化が見られる。從來世界觀を形成して居た知識は、――それは知識と稱せられ、感情や行動の基礎となつては居たが――實は個人の氣質や感情、あるひは又當時の社會的要求などが既に混入して居たもので、今日の數學を基礎とする科學的知識と比べて趣を異にして居る。古來のいはゆる知識は感情と知性との間に明確な識別がなかつたと解すべきであらう。數學の世界は感情の潛入を拒否する。それを根底に置て發達した近代科學は、宇宙乃至人間についての過去の神秘的驚愕を容赦なく破壞して、單純な物質の因果關係に還元した。が、傳統に培養された考へ方は一朝にして棄て難い。

△

かくの如き急變な世界內容の變化に面して、現代人の心の統一は亂れ知識と感情とが對立して居る。眞に文明の矛盾である。詩は過去の情緒的世界觀と共に生し、それ自身の存在理由を求めて居る。

△

詩の存在理由をここに求めて居る彼は、然し決して說敎の世界に逃避して幻想に浸る詩人、例へばイエツ、デ・ラ・メアに與するのではない。彼の主張は詩と科學の領域の明確なる認識、詩と信仰との分離である。詩の敍述は決して「眞」を目的とするものではない。換言すれば詩的眞と科學的眞とは程度の差でなく種類の差である。

△

詩の敍述に意味を適用するものは木に縁つて魚を求むるより難だしい。詩の滅亡を說く者も無ねは、この種の說を忘却して居る。詩の價値は直接に著者の情緒と感度とを動かして、更に同樣な一に心を導く感覺刺戟に訴かれなければならぬ。この點にのみ詩の獨立を認め、科學の合理的で妥當な敍述を詩に持入れることを拒否する。詩が信仰の眞を主張して然も絕もその價値を失はない事實の例へとして、テイ・エス・エリオットの傑作「不毛の地」を擧げて居る。十九世紀浪漫派の詩人が敎文（散文）である。可成り面白い、よく讀ませてゐる。さういふ作品だつたので讀んで見たが、讀んだ後で、さてこれは新感覺派に屬するのだらうか、プロレタリア派に屬するのだらうか、それとも折衷派に屬するのなのであらうか、と考へた。が、遂に解らなかつた。新感覺派といふ所があるかと思ふと、佛物らしいプロレタリア・イデオロギイが顏をだしたりする。二三頁の一行目に、……ぶつぶつとしばしば俺の事で、一生懸命で、發揮して……とあつたが、もちろんこれは誤植に過ぎないのである。一生懸命であるべきである。しかしこの「道」においては、この誤植が左程可笑しくない作品が表現技巧が拙劣で、印象が不鮮明であるといふのではない。何となれば――表現は語句のいふやうに何よりもまづ內容であるから。あるひ――形式は內容を決定するものであるから。詞賣などはどうでもいゝのである。

次に北村實一郎氏「八雲のベンチ」（立敎文學）、大田晶夫氏「パラソル」（同上）、こゝであるが、いづれも同じやうな立敎ボーイ型の作品である。筆者は嘗て敎育部でかういふ戲曲に仰たレヴューを見たことがある。モダンボーイ、モダンガールが出て來て戀を囁いたり、警官が滑稽をやつたり、警官が出て來たりするのである。敎育部で今レヴューの編本を募集して居るさうだが、今の二つの戲曲は應募したら極に二百圓になる作品である。

いつも然々さう思ふのであるが、天下の立敎大學の文科たるものが、こんな淺ツぽらな、しかも月並にまで到らない小册子しかだしてゐないといふことは實に殘しむべきことである。これは一に經濟的なる如何によるものと聞いてゐる。年に千や二千の金を與へてやることが、それ程不可能事に屬するのであらうか。筆者は此の點に關して、文科生諸君の自覺と當局の反省とを促したい。

×

泥足の踏は編輯がよくなつたのが嬉しい。創作は加藤三吉氏の「コーミュニズムを語るアイヌ」一篇だけで寂しい氣がする。捉へた素材も珍しいものではないし、讀者にアピールする强アチティーイヴなものでもないが、平凡な小品としていはゆる臭味のないところが好もしい。イデオロギイ的に止揚したら小林多喜二氏の「蟹工船」くらゐのものは書ける人かも知れない。泥臭く感じが惡くつて、地方語は濃ひだといふ人もあるが、要は作家の技術如何にあるのではないかと思ふ。完全に地方語が織出來たら、地方人の生活は一層生々と地方色を帶びて來て、我々の心をとらへることだらうと思はれる。

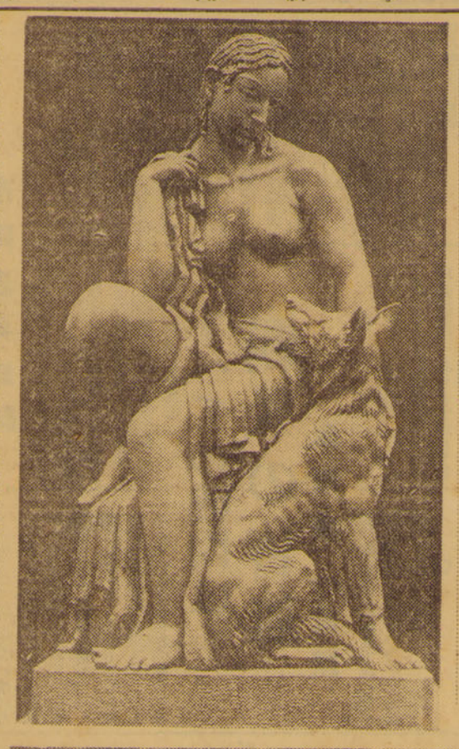
この外に「不蘭氣の抽象的意義」などといふ怪しげな論文や史學考證のやうなものも載つてゐるが、かういふものは他の雜誌へ讓つてはどうか。もう論文や評論は飽あつて好いが、中學の學友會雜誌のやうなものでも困ると思ふ。

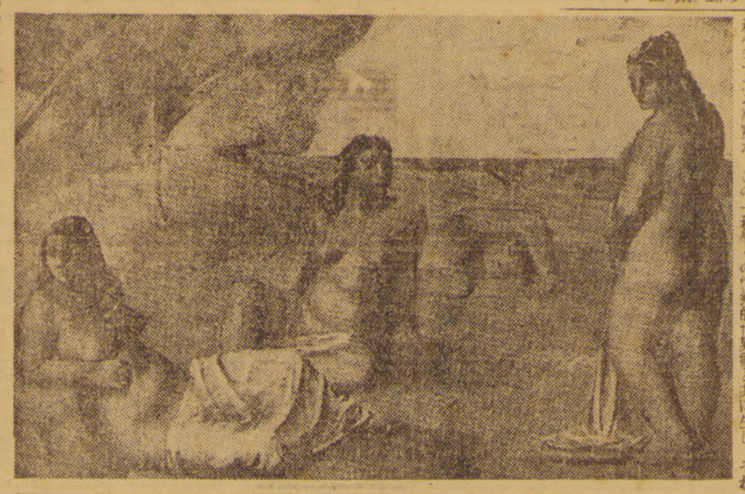
「田邊教授の「金春傳竹の價値」と筆者は題して、一度に發表諸氏はもう少しかういふ方面における學生の雜誌なり說明なりに力を注いでも好くはないだらうか。

帝展

（彫刻）（上）愛犬　津上昌平氏作

（洋畫）（下）草上の裸婦　鈴木千久馬氏筆





ダイアリイ・ハビツト

久保田正次

いま、昭和五年の晩秋の灯は、私の机上にうらさびしい光を投げかけてゐる。私はここで「うらさびしい」てふ形容詞を使用したが、東洋に生をうけた私にとつては、秋は何となくさびしさを感ぜしめる季節であるのだ。「みのり」の節としての嘉ばしさよりも、寂もすると「淋落」の季を思はせ難である。寂寞として見るる冬寒い月の色にも、寸尺にも尽らぬ庭なからそこに見出す落葉にも似しく、ある「さびしさ」が漂ふのである。沈む心は、いつか身を書齋の中に運ぶに慣られてゐる。

○

心いたづらに浮世の春、著無に日わるす同く夏に沒つて、ここに秋深きころの想念に浸る心地は、またなく快いものである。眼は、おのづから机上に、書籍のそこへ移る。そこには讀みたい書物、讀まねばならぬ書物の堆積が、あだかも、おのがじし、その糸よりも細い手を伸ばして私を捉げかけてゐる。私はこの「うらさびしい」てふ形容詞を使用したが、東洋に生をうけた私にとつては、秋は何となくさびしさを感ぜしめる季節であるのだ。「みのり」の節としての嘉ばしさよりも、寂もすると「淋落」の季を思はせ難である。寂寞として見るる冬寒い月の色にも、寸尺にも尽らぬ庭なからそこに見出す落葉にも似しく、ある「さびしさ」が漂ふのである。沈む心は、いつか身を書齋の中に運ぶに慣られてゐる。

○

イギリス人は實に日記をつける。ことを好む國民である。かのいはゆる "Diary Plus" の書遍してゐること驚くべきものがある。上は大臣より下は――と書いたには書いたが、鳥渡うまい言葉が出ないが、兎に角――凡人で さへも日記をつけたりする。ダイアリストといふ言葉さへある。傳記文學と共に日記文學はイギリス文學の華である。もちろん日本にだつて日記文學はある。そして、また文學者で役立つ例もある。旗本の次男坊であつた私の曾祖父は「ふきよせ草」と題し「禁他見」と傍記してある十幾册かの日記を私に遺してゐる。澤山あつたのだらうと思ふが逸散したのであらう。今の私には十幾册しか殘つてゐないのだ。それでもこの中から幕末の江戸の狀況が寫出されるので、私は眼にそれを繰りひろげて見るの誘惑を感じさせられる。

○

日本の海合では、彼に世に出ない、否だすまいと思つて、つまり「禁他見」流のが多いが、イギリスでは、どうもその反對らしい。さつき擧げた「ピイプスの日記」にしてでも眼鏡で書かれてあつたことに價値の大がある。それはかくあることによつてそこに多くの眞實性があるからだ。讀まれることを意識したものには何といつても誠分の餘地がある、取捨がある、事實人間は嘘いものだから。

○

己れのことを語るものは「うるさき人々」だ。だが、同じ事が書かれた場合になぜ「うるさき人々」でなくなるのだらうか。供給は常に需要を制約するにしてからが、その需要が旺盛であるのには何かの理由がなくてはならない。假りに書かれる動機を需要からだと輕く片づけたにしても、それでは多數の讀者存在の理由にはならない。

○

考へ得られる唯一の動機は、それは「歷史の感覺」に對する評者界の反逆」と見ることだと、エス・エイチ・ウルフはいふ。カアライルがミルにあてた書信のうちで「……もつとも重要なる條件は事實を眼前に見る如く、有りのまゝに描くことである。だが、悲しいかな――すべての考察の中で「歷史の感覺」かもつとも考慮されはないのは――この一事である」といふ意味のことをいつてゐる。かのサツカレイがソルフ將軍の研究のための材料をこゝに集すべく大英博物館の司書の許に行つたときの言葉は次の如くであつた「將軍の戰記は要らない。私は將軍が赤いズボンを穿いてゐたかどうかを知る材料が欲しい。」

○

私達が知りたく思つてゐるのはこれである。換言すれば歷史に見ることだけでなく、ダイアリストが私たちに與へる何かそれ以上のものである。歷史の感覺は古來種多の名將の、ほとんど神話にも近い言行を語つてゐる。けれども、ダイアリストだつたらあるひはもつと異つた材料を私達に提供して與れるかも知れない。

○

日記は個人的であらねばならない。けれども パソナリティの興味が、もしそれを通して外界を反映せしめるものでなかつたら、それは價値そのものになる。傳記文學の王座にあるボズウエルの「チヨンスン傳」は日記としてもうつとも興味深いもので、詩人である人々と私達を誘しませて是れる。ピイプスの日記が私達に魅力を感じさせるのも、この個人の世界と外界とを連續させるにある。親しみを感ゆるの魅力と史的價値における權威とがこの中にある。

○

こんな事を考へてゐると、私の日記などは、書かれたつて書かれなくつたつて、どつちでも良いことになる。これは私一個人のメモに過ぎない。私の場合はこれでいいのだ。私が曾祖父の日記に限りない愛着を感じてゐると同じ程度の愛着を私の曾孫が、私の日記に感じなくてもあ

「ピイプスの日記」に移つて行つたが、最早や寂寞することはなかつた。そして「行く秋や……」と十七字詩の構成に、じつと電氣スタンドを見つめてゐるのだつた。

文藝時評

葛飾節三

メフイストフエレス敎授の試驗に見事合格した筆者は、文藝批評の仕方を十分心得てゐたのである。例へば堀辰雄氏の「聖家族」を批評するとする。成程こゝには詩とミスティークとがある。古典的な品位とノーブルな柔和さとがある。さうして、あらゆる古さをもちながら全く新しい、といふ感じを與へるだけの一つの完成を示してはゐる。けれども結局それだけだ。この答案は少くともメフイストフエレス敎授ならば九十點を與へることは確實である。

×

そこで菊岡久三氏の「道」（立敎文學）、大田晶夫氏「パラソル」（同上）、こゝであるが、いづれも同じやうな立敎ボーイ型の作品である。筆者は嘗て敎育部でかういふ戲曲に仰たレヴューを見たことがある。モダンボーイ、モダンガールが出て來て戀を囁いたり、警官が滑稽をやつたり、警官が出て來たりするのである。敎育部で今レヴューの編本を募集して居るさうだが、今の二つの戲曲は應募したら極に二百圓になる作品である。

いつも然々さう思ふのであるが、天下の立敎大學の文科たるものが、こんな淺ツぽらな、しかも月並にまで到らない小册子しかだしてゐないといふことは實に殘しむべきことである。これは一に經濟的なる如何によるものと聞いてゐる。年に千や二千の金を與へてやることが、それ程不可能事に屬するのであらうか。筆者は此の點に關して、文科生諸君の自覺と當局の反省とを促したい。

×

泥足の踏は編輯がよくなつたのが嬉しい。創作は加藤三吉氏の「コーミュニズムを語るアイヌ」一篇だけで寂しい氣がする。捉へた素材も珍しいものではないし、讀者にアピールする强アチティーイヴなものでもないが、平凡な小品としていはゆる臭味のないところが好もしい。イデオロギイ的に止揚したら小林多喜二氏の「蟹工船」くらゐのものは書ける人かも知れない。泥臭く感じが惡くつて、地方語は濃ひだといふ人もあるが、要は作家の技術如何にあるのではないかと思ふ。完全に地方語が織出來たら、地方人の生活は一層生々と地方色を帶びて來て、我々の心をとらへることだらうと思はれる。

この外に「不蘭氣の抽象的意義」などといふ怪しげな論文や史學考證のやうなものも載つてゐるが、かういふものは他の雜誌へ讓つてはどうか。もう論文や評論は飽あつて好いが、中學の學友會雜誌のやうなものでも困ると思ふ。

「田邊教授の「金春傳竹の價値」と筆者は題して、一度に發表諸氏はもう少しかういふ方面における學生の雜誌なり說明なりに力を注いでも好くはないだらうか。

新刊と寄贈書

◇社會は何故に惱むか。青野季吉著。何故社會は惱むか、如何にしてこの苦惱から脫出すべきか。この問題に對してだれが正當なる解答を與へるか、之は著者の評論集で世の大衆に呼びかけてゐる。定價一圓五十錢、芝區愛宕下町、改造社發行

◇女性論（近代フエミニズムの檢討）ウイート・クヌッドセン著、松本慣明譯、比類なき資料の豐富さと、該博なる研究による「女性」解剖の一大快著。定價一圓七十錢

◇本郷區弓町一ノ二五、一元社發行

◇倫敦海軍軍縮會議の成果、山川肇夫著、定價五十錢、丸の內二ノ十二、國際聯盟協會發行

◇**プロレタリア科學**、十一月號、價四十錢、牛込區市ヶ谷ビルディング內、プロ科學研究所發行

◇劇場術、十一月號、價三十五錢、牛込區南榎町四一（松九方）劇場術社發行

◇國際知識、十一月號、價四十錢、丸の內二ノ十二、國際聯盟協會發行。

立教俳壇

向日　信一

牢に射す方一尺の回日かな
ゆらくと唯一點の回日かな
向日や移る程座を移しけり
鐵格子ゆがめて映す回日かな
向日や先づ足先を濕めけり

無題

獄に飛ぶつばくら羽根の經さかな
寢返へりや外は涼の蟲笑ひ

昭和六年版新裝して出づ！
ライオン當用日記
內容も外觀も近代味橫溢！
ライオン齒磨本舗廣告部
東京・東京市本所區橫綱一丁目
橋替口座東京四八三五五
大阪・大阪市東區博勞町三
振替口座大阪二番
名古屋・名古屋市西區桑名町
中形（四六判）金八十錢 送料十二錢
普及版（中形）金五十錢 送料十錢
小形（袖珍判）金七十錢 送料八錢
代金引替郵便謝絕

京北麻雀莊
池袋一〇四六
靜かで感じのよい

皆樣の Tea Room サカミ
一九三一年型の
丁目橫喫茶

喫茶と洋酒 アザミ
丁目橫喫茶池袋
此の券切り取り御持參下されし方に割引いたします

美津濃の靴と文具

麻雀 羽衣莊
立大前

味と感じ一〇〇パーセントの三好野へ
常盤通り

撞球は非是は
新開店の高級ビリヤード
へさぶなは
廣瀨洋服店撞球部
池袋豐島師範橫清水湯

恩謝の圓貳百圓月額
大奉仕
スミレ
おたのしみ券
進呈
大變皆樣の御好評を頂いて居ります
喫茶と洋酒
ビクター電氣蓄音器常奏
丸太の家
スミレ
池袋

カレイジャンの御婦人は
斷然效果100パーセントの
クマザキへ
熊崎理髮店
大學橫丁通

謹告
皆樣の御禮申上げます。就きましては今後一層の努力と懸命の奉仕により皆樣に御報ひ申し上げ度大學の食堂として皆樣に御滿足の得る限りきます。食堂內の設備も出來に工夫し、サービスに同じ御仕へ致しまして特に御望により職員樣方には御用令次第御調下の値段にて御奉仕致します。尙書食の御用命の程御願ひ申上げます。何卒白
立大食堂　穗積元

支那料理
酒銘 褒紋 正宗
支那酒各種
菊水
豐島師範際
電大塚三〇八五

天化丼と天丼
おそば類一切
トテモオイシイ
畫食
としま庵
池袋喫茶橫丁

Tea Room
High Class Records
KUJAKU
St. Paul's University street.

酒場
トロカデロ
池袋一一〇

西洋料理は
支那料理は
美味しい
立大前通りの
チヤフハウスへ

おてん
嬰かいうどんとしるこも始めました
立大通
あけぼの

ドラゴン
池袋仲町
王と麻雀
龍王莊

皆樣の寫眞屋が改築出來ました
相變らず御愛顧の程を
マルヤ

開店御挨拶申し上げます
是非一度御試食を
おてん
和食
洋食
支那料理
定食
皆樣の
やまじや食堂
豐島師範橫通